

竜王町商工会
令和6年度 地域経済動向分析

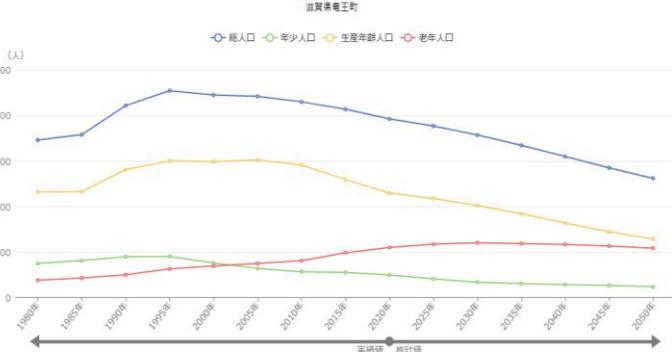
地域経済分析システム『RESAS』活用

◆竜王町における人口動向について

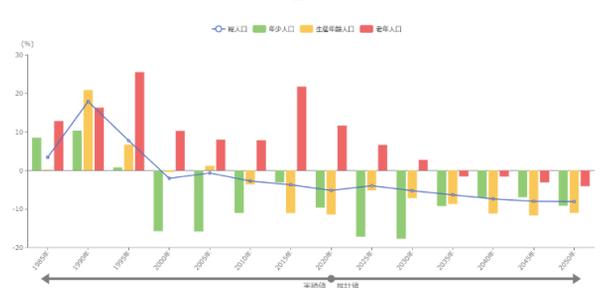
竜王町の現在の人口は11,192人（2025.2）と、ピークである1995年の13,650人から約18%減少している。また中段右のグラフから、分かるように少子高齢化の傾向も顕著であり、今後も人口の減少が想定され、推定値として2050年には7,872人と現在の70%程度と見込まれている。

また、現在の年齢別人口構成と今後を確認すると、2020年時点において、「老年人口（65歳以上）」3,315人、「生産年齢人口（15歳～64歳）」6,897人、「年少人口（0歳～14歳）」1,506人となっているが、2050年には「老年人口」3,270人、「生産年齢人口」3,870人、「年少人口」732人となっている。そのため、「生産年齢人口」が2020年から2050年にかけて、44%減。「年少人口」に至っては52%減となっており、益々の町内労働者不足が見込まれるとともに、老年者を対象としたサービスの提供が増加する可能性がある。

人口推移グラフ
滋賀県竜王町



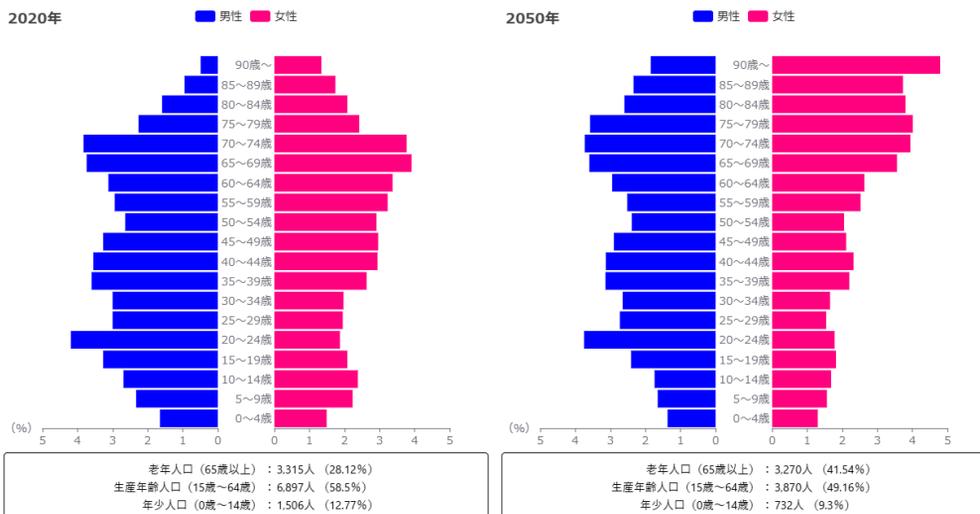
人口増減
滋賀県竜王町



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 【注記】2020年までは「国勢調査」のデータに基づき(家数推定)、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ(令和5年12月公表)に基づき推計値。
 A: 2025年以降のデータは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村(いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯館村)をまとめて推計しているため表示されない。
 B: 2025年以降のデータは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村(いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯館村)をまとめて推計しているため表示されない。

【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 【注記】2020年までは「国勢調査」のデータに基づき(家数推定)、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ(令和5年12月公表)に基づき推計値。
 2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。
 2025年以降のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村(いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯館村)をまとめて推計しているため表示されない。
 総数には年齢不詳を含む。

人口ピラミッド
滋賀県竜王町

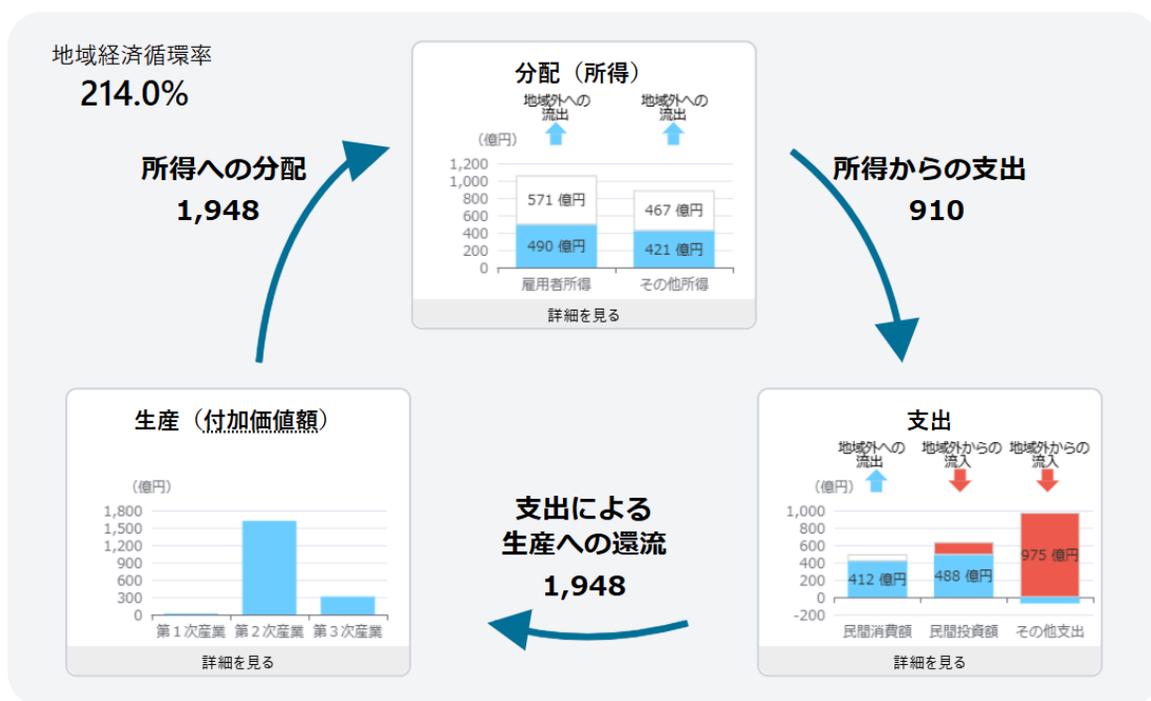


| | |
|--|---|
| 老年人口 (65歳以上) : 3,315人 (28.12%) 生産年齢人口 (15歳～64歳) : 6,897人 (58.5%) 年少人口 (0歳～14歳) : 1,506人 (12.77%) | 老年人口 (65歳以上) : 3,270人 (41.54%) 生産年齢人口 (15歳～64歳) : 3,870人 (49.16%) 年少人口 (0歳～14歳) : 732人 (9.3%) |
|--|---|

【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 【注記】2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ(令和5年12月公表)に基づき推計値。
 2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。
 2025年以降のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村(いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯館村)をまとめて推計しているため表示されない。
 総数には年齢不詳を含む。

◆竜王町地域における地域経済循環

地域経済循環分析とは、地域経済の長所と短所を分析し、地域のお金（所得）の流れを生産、分配、支出（消費・投資）の三面から「見える化」したものである。地域経済の全体像や、所得の流出入（お金を稼ぐ力・流出額）、地域内の産業間取引を通じて、循環構造を把握することができる。



【出典】
環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成)
[地域経済循環分析（環境省）](#)

2018年時点における竜王町の地域経済循環率は214.0%と高い水準となっている。上記循環率は、生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、竜王町地域における地域経済の自立度を示している。これは、竜王町地域において、ダイハツ工業など第2次産業である「製造業」を中心とした高付加価値企業が多数在籍していることに起因すると考えられる。また、高付加価値が創出される故、所得への分配も1,948億円と高水準にあるが、竜王町内在住の雇用者への分配額は490億円、町外在住の雇用者へは571億円と、地域外への流出が全体の50%以上となっている。

支出に関しては、大型商業施設もあり、地域内での消費額でほぼ占めている。一方で、民間投資や竜王町地域から輸出することによって得た収入から、地域外からの輸入による支出を示すその他支出では地域外からの投資に頼っている一面もある。

以上から、竜王町地域の経済循環は、2次産業を主軸とした高付加価値を創出する企業が牽引しているが、そこで生み出された所得が町内在住者に還元されている割合は50%に満たない。また、大型商業施設により、地域への民間消費率は高い水準であるものの、地域経済へ還元されている絶対数も多くはないことがわかる。

支出流出入率
2018年
指定地域:滋賀県竜王町

| | 民間消費 | 民間投資 | その他支出 |
|----------|--------|-------|-----------|
| 支出流出入率 | -16.8% | 30.0% | -1,346.4% |
| 支出流出入率順位 | 1,300位 | 112位 | 1,737位 |

所得（一人当たり）
2018年
指定地域:滋賀県竜王町

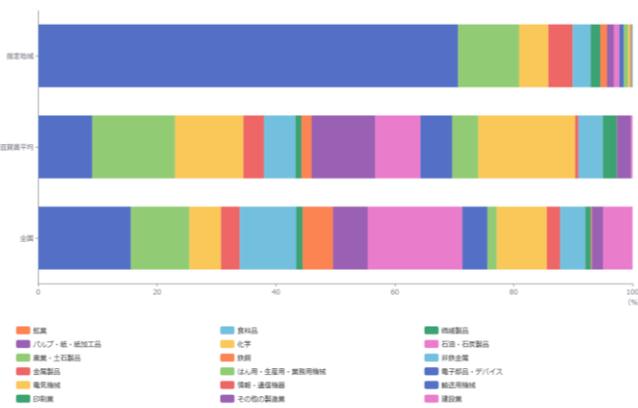
| | 雇用者所得 | その他所得 |
|-------------|-------|-------|
| 所得（一人当たり） | 405万円 | 348万円 |
| 所得（一人当たり）順位 | 22位 | 259位 |

付加価値額（一人当たり）
2018年
指定地域:滋賀県竜王町

| | 第1次産業 | 第2次産業 | 第3次産業 |
|----------------|-------|---------|--------|
| 付加価値額（一人当たり） | 326万円 | 1,997万円 | 691万円 |
| 付加価値額（一人当たり）順位 | 585位 | 98位 | 1,514位 |

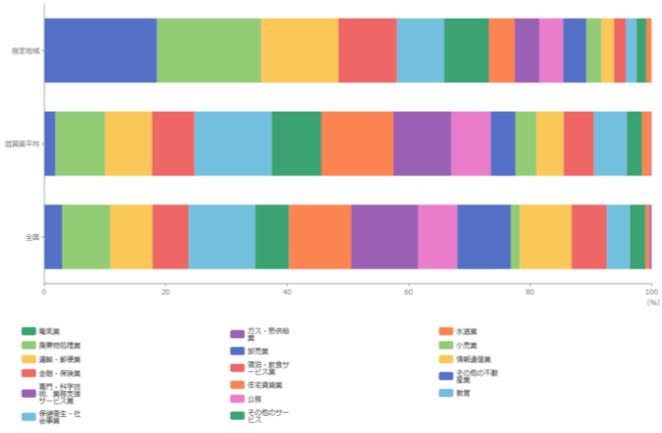
◆竜王町における生産分析

地域内産業の構成割合（生産額（総額））＜産業ごとの内訳：2次産業＞
滋賀県 竜王町
2018年



【出典】
滋賀県「地域産業連携課」、「地域経済計算」（株式会社信託総合研究所（日本政策投資銀行グループ）委託作成）
地域経済連携分析（環境省）
【注記】
本データの総額分析については、以下URLを参照。
<https://www.vmi.co.jp/gn/teca/>
一人当たり生産額＝当該産業生産額÷当該産業従業者数
一人当たり付加価値額＝当該産業付加価値額÷当該産業従業者数
一人当たり雇用者所得＝当該産業雇用者所得÷当該産業従業者数
本データは国民経済計算、県民経済計算、産業調査、経済センサス等のデータを用いて、全国の準町村のデータを統一的方法で作成している。
国民経済計算や県民経済計算は、精度向上を目的に推計方法については絶えず見直しを行っている関係上、随時、過去に遡って改定がなされるため、本データのデータ更新時には、これまで公開していた数値から変更する場合があります。
「公開の生産活動の産出額は、売上等のデータからは推計できないことから、製造業（←サービス提供にかかる費用）など経済活動に要した費用の積み上げが産出額となっている。
「住宅賃金業」には構築業が含まれている。

地域内産業の構成割合（生産額（総額））＜産業ごとの内訳：3次産業＞
滋賀県 竜王町
2018年



【出典】
滋賀県「地域産業連携課」、「地域経済計算」（株式会社信託総合研究所（日本政策投資銀行グループ）委託作成）
地域経済連携分析（環境省）
【注記】
本データの総額分析については、以下URLを参照。
<https://www.vmi.co.jp/gn/teca/>
一人当たり生産額＝当該産業生産額÷当該産業従業者数
一人当たり付加価値額＝当該産業付加価値額÷当該産業従業者数
一人当たり雇用者所得＝当該産業雇用者所得÷当該産業従業者数
本データは国民経済計算、県民経済計算、産業調査、経済センサス等のデータを用いて、全国の準町村のデータを統一的方法で作成している。
国民経済計算や県民経済計算は、精度向上を目的に推計方法については絶えず見直しを行っている関係上、随時、過去に遡って改定がなされるため、本データのデータ更新時には、これまで公開していた数値から変更する場合があります。
「公開の生産活動の産出額は、売上等のデータからは推計できないことから、製造業（←サービス提供にかかる費用）など経済活動に要した費用の積み上げが産出額となっている。
「住宅賃金業」には構築業が含まれている。

上記グラフは、地域内総生産額に対し、2次産業並びに3次産業の各業種がどれだけの割合を占めているのかを表している。

2次産業において、「輸送用機械」が70.6%、「汎用・生産用・産業用機械」が10.3%、「電気機械」4.9%、「金属製品」4.1%と、高速道路近郊である長所を生かした業態がほとんどを占めている。これは滋賀県平均、全国と比べても高水準であるが、一方で「建設業」や「食料品関係」の割合が低くなっている。

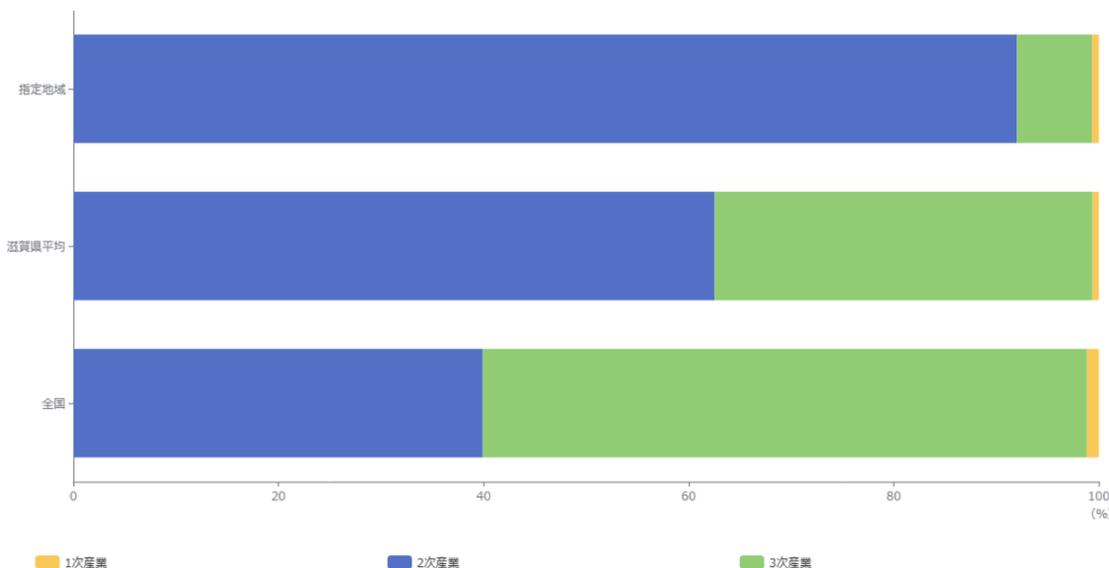
建設業：竜王町0.9%に対し県平均7.6%,全国15.9%
食料品：竜王町3.0%に対し県平均5.3%,全国9.5%

3次産業では工業用地を貸出等を含む「その他不動産業」が最も高く18.6%、「小売業」が17.1%、「運輸・郵便業」が12.7%、「宿泊・飲食サービス業」が9.6%となっている。こちらも2次産業の影響を強く受ける業態が多くを占めており、「小売業」や「宿泊・飲食サービス業」など、大型商業施設に起因する事業が続いている。その一方で「住宅賃貸業」や「教育関係業」の生産額は低くなっている。これは、大学などの高等教育機関がないことや、竜王町内の労働者のうち、地域内の定住者や地域外から通勤していることを示しており、地域人口において流動的な人の流れが生じていないことがわかる。

教育業：竜王1.8%,県平均5.4%,全国3.8%

住宅賃貸業：竜王4.3%,県平均11.9%,全国10.3%

地域内産業の構成割合（生産額（総額））
滋賀県 竜王町
2018年



【出典】

環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

[地域経済循環分析（環境省）](#)

【注記】

本データの詳細な分析方法については、以下URLを参照。

<https://www.vmi.co.jp/jpn/reca/>

一人当たり生産額 = 当該産業生産額 ÷ 当該産業従業者数

一人当たり付加価値額 = 当該産業付加価値額 ÷ 当該産業従業者数

一人当たり雇用者所得 = 当該産業雇用者所得 ÷ 当該産業従業者数

本データは国民経済計算、県民経済計算、国勢調査、経済センサス等のデータを用いて、全国の市町村のデータを統一的方法で作成している。

国民経済計算や県民経済計算は、精度向上を目的に推計方法については絶えず見直しを行っている関係上、随時、過去に遡って改定がなされるため、本データのデータ更新時には、これまで公開していた数値から変化する場合があります。

「公務」の生産活動の産出額は、売上等のデータからは推計できないことから、発注額（＝サービス提供にかかる費用）など経済活動に要した費用の積み上げが産出額となっている。

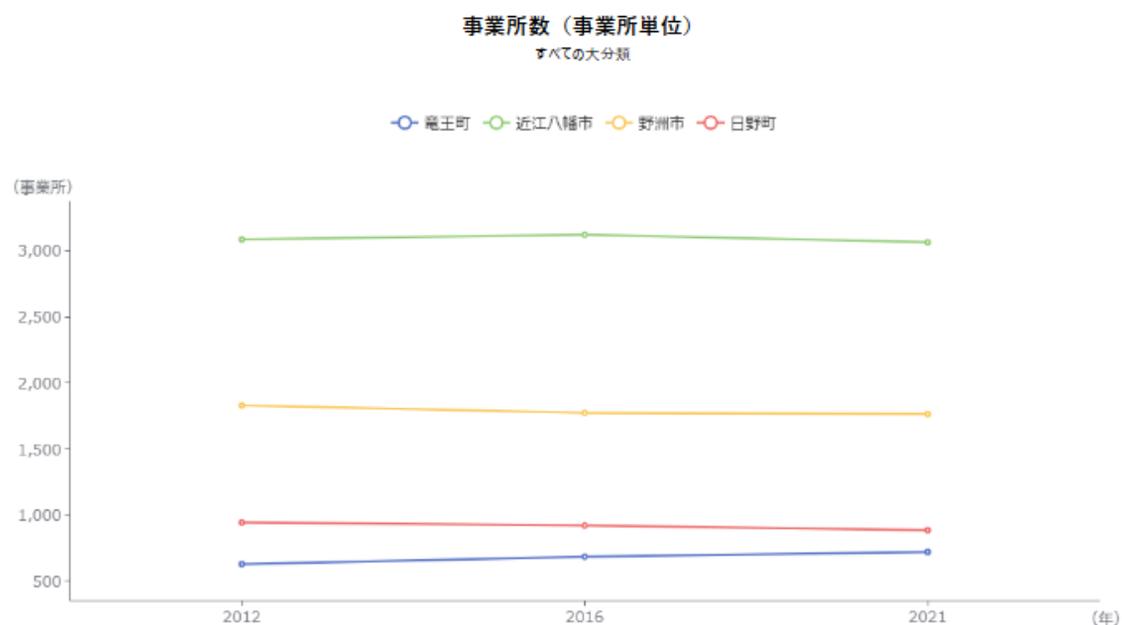
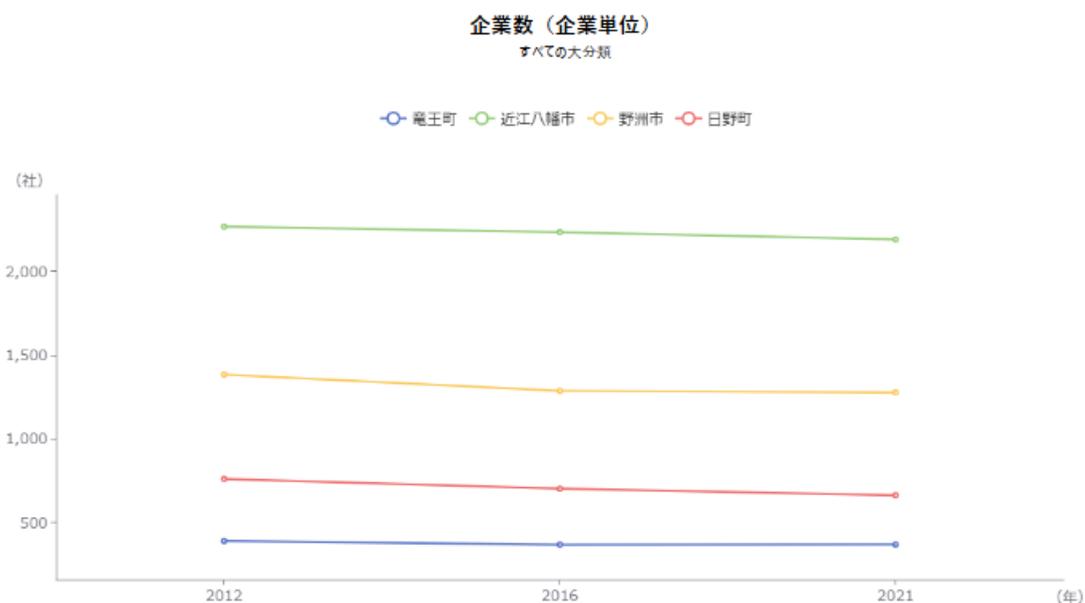
「住宅賃貸業」には帰属家賃が含まれている。

上記グラフは竜王町地域における産業の構成割合を生産額の総額を元に示し、滋賀県平均、全国と対比させたものである。やはり、「製造業」などの2次産業が全体の92.0%を占めており、3次産業が7.3%、1次産業が0.6%となっている。これは、県・全国の割合と比べても1つの産業に偏ったものとなっている。

◆竜王町における企業数と従業者数（比較）

下図は竜王町における企業数について、企業単位と事業所単位で分けたものである。また、比較材料として、近隣3市町を掲載している。

竜王町における企業数は**388社**（2012）**366社**（2016）**367社**（2021）となり、減少傾向である。しかし、近隣市町も同様に減少傾向であるため、町の特徴によるものではないと考える。事業所数については**628事業者**（2012）**685事業者**（2016）**720事業者**（2021）になっており、増加傾向にある。一方で、近隣市町は横ばいである。



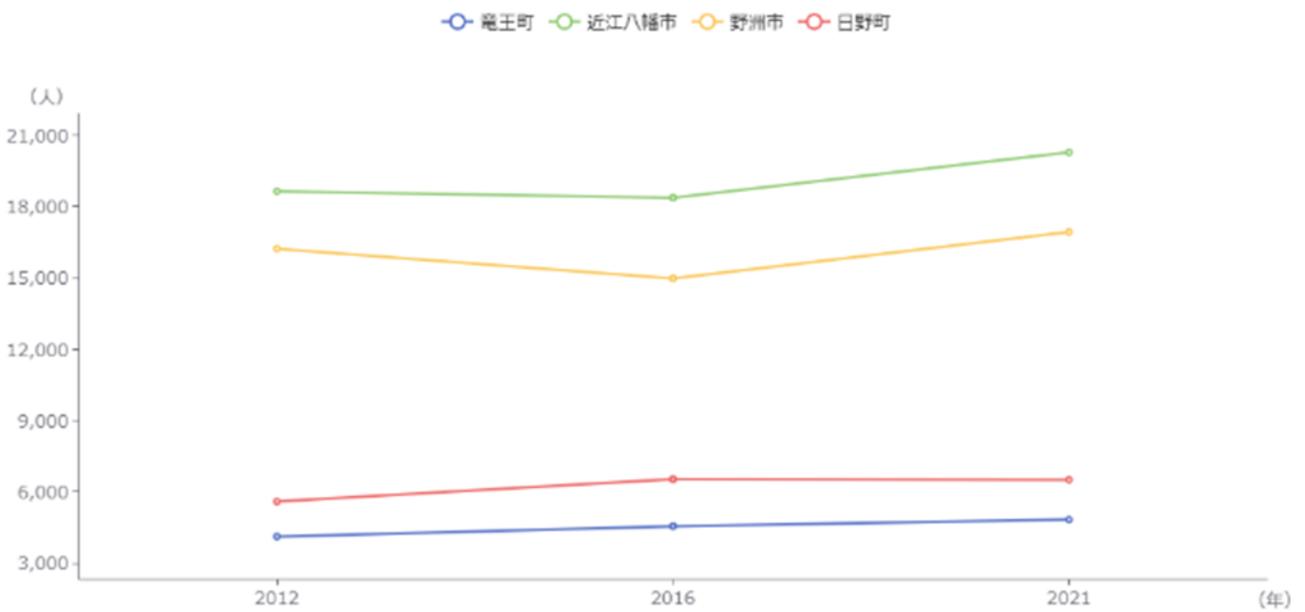
従業者数については、

企業単位： 4,115人（2012） 4,553人（2016） 4,829人（2021）
事業所単位： 10,828人（2012） 11,902人（2016） 12,432人（2021）

となっており、ともに2012年から2021年にかけて緩やかな上昇傾向にある。その他近隣市町においても、2016年時点で減少しているところもあるが、基本的に増加傾向となっている。

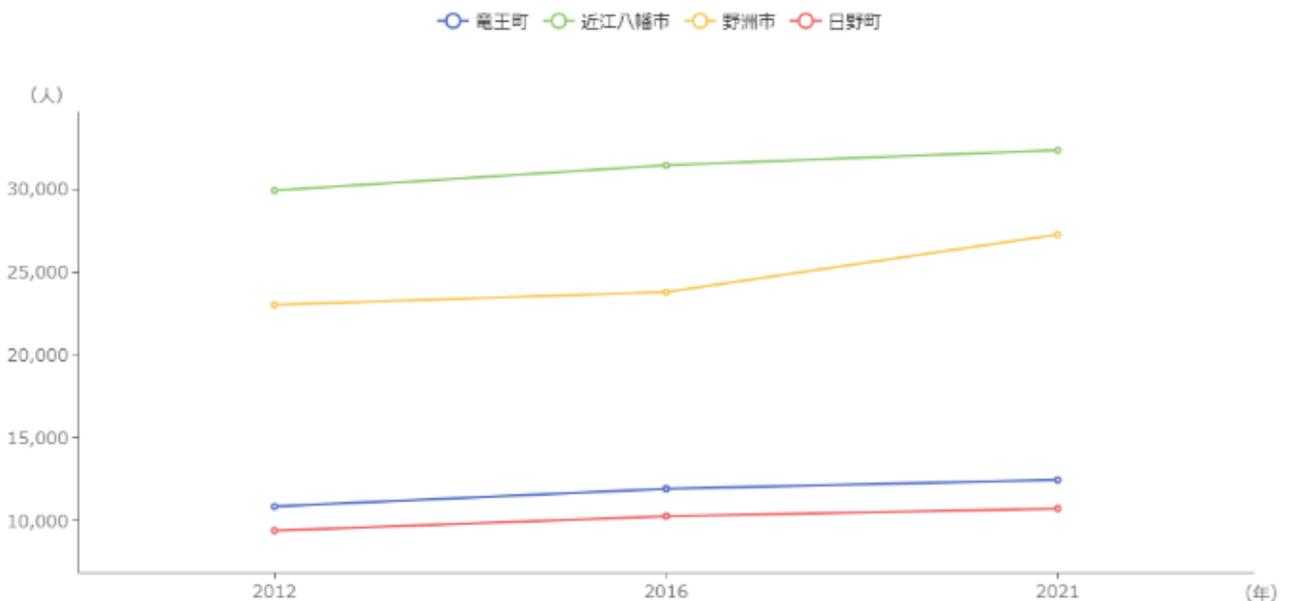
従業者数（企業単位）

すべての大分類



従業者数（事業所単位）

すべての大分類



改めて、2021年における産業構成割合（事業所単位）について確認したい。「卸売・小売業」276事業者、「建築業」78事業者、「製造業」69事業者、「サービス業」68事業者、「宿泊・飲食サービス業」が58事業者、「医療・福祉」38事業者で全体の8割以上を占めている。2012年対比では、「卸売・小売業」が214事業者から62事業者増となっている一方で、「建築業」87事業者、「製造業」82事業者、「サービス業」67事業者、「宿泊・飲食サービス業」54事業者と減少している。一方で、「医療・福祉」20事業者と増加しており、高齢化による商圈の拡大が要因と考えられる。また、前述に伴い、産業構成割合にも変化が生じている。

産業構成割合（事業所単位）2021年



産業構成割合（事業所単位）2012年



【まとめ】

人口推移グラフ及び、人口ピラミッドで示されているように、竜王町の人口は減少傾向であり、その中でも今後、生産年齢・年少人口は大幅な減少を見込まれている。そのため、竜王町の立地として、高速道路竜王ICがあり交通の要衝であり、大型商業施設や、多数の大手メーカーなどの工場や、そこに部品等を供給する2次産業事業者が多く在籍している状況であるが、そこで勤める従業員は町外からの通勤者であると分かる。

町内人口は減少傾向にあるため、現在町内にある事業所は、顧客を町外に探していく必要がある。元々地域外との取引をメインとしている企業・事業所への影響は少ないと考えられるが、地域内取引が主となる企業・事業所にとっては、今後益々の売上減少が見込まれ、町内からの撤退や、売上減少に合わせて高齢化を理由とする廃業を視野に入れる企業・事業所も発生する恐れがある。

また、現在の地域経済循環率は200%越えの高水準となっているが、所得への分配に目を向けると、地域内の雇用者への分配は490億円と雇用者への分配総額の46%となっている。このことから元々の町内生産年齢人口も少なく、竜王町内で少ないパイを取り合うこととなり、地域内産業が盛り返していくことが難しい状況であることは明らかである。

前述しているように、竜王町は高速道路の伸展により、交通の要衝となっているため、町外から顧客を呼び込むことが容易な立地となっている。そこで、地域の特産や名産品、歴史など竜王町の長所を前面に押し出し、他地域商業と差別化を図った観光・商業が地場産業への活性化を促進に必要と考えられる。合わせて町内の魅力をPR事業など、移住者を増加させる取り組みを行い、生産年齢人口を盛り返すことが、持続的な町内経済の発展に求められる。